

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520015

研究課題名(和文) 平和構築のための哲学実践

研究課題名(英文) Philosophical Practice for Peace Building

研究代表者

望月 太郎 (Mochizuki, Taro)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50239571

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：哲学実践マスターコースのカリキュラムをデザインし、大学院プログラムとして実装する準備を整えた(第13回アジア学術会議タイ会合国際シンポジウム、2013年5月8日、バンコク、ポスターセッションで報告)。またコース用のテキストブック(カンボジア語、英語名：Philosophy and Critical Thinking)を編集、製本した(未刊)。国際フォーラムを開催した(カンボジアで2012,2013にわたり2回)。現地にNPO法人Prajnasastra Viharaを設立した。Philosophy Cafe Cambodiaをプノンペンで定期的実施している。

研究成果の概要(英文)：Our team designed a Philosophical Practice Master Course programme curriculum and prepared for creating a new M.A. programme at the graduate course level in Cambodia (presented @ the 13th SCA Symposium, 8 May 2013, Bangkok). Our Cambodian partner edited and made copy of the textbook for the Master Course programme (in Khmer, English title: Philosophy and Critical Thinking). Our team also held international forum in Cambodia (twice in 2012-2013 in Cambodia). Our Cambodia partner also established a non-profit organization (NPO) Prajnasastra Vihara Practical Philosophy Institute, and they open Philosophy Cafe Cambodia in Phnom Penh City on a regular basis.

研究分野：哲学・高等教育

キーワード：哲学実践 哲学教育 教育開発 クリティカルシンキング 哲学カフェ 国際交流

1. 研究開始当初の背景

先行した科研費補助金による共同研究「批判的思考のアジア型適応」(基盤研究(C)研究代表者:望月太郎, H21-H23)において、批判的思考(クリティカルシンキング)の教育が、タイの大学においても英語をワーキングランゲージとしたインターナショナルプログラムの教室で有効であること、留学生が混じる教室ではいっそう効果が上がることを、教育実践を通じて確認した。さらに、ソクラティックダイアログや哲学カウンセリングといった多様な哲学実践の手法を取り入れた双方向的授業を行い、引っ込み思案なタイ人学生がよりアクティブに参加できるような、批判的思考教育の授業改善のためのカリキュラム開発に取り組んだ。

ところで、東南アジアの発展途上国において哲学教育は平和構築のために不可欠である。カンボジアでは政治腐敗のため汚職がはびこり、教育現場でも不正が横行している。そのような状況の中で研究代表者は、カンボジア人哲学教員から哲学実践を中心に据えた大学院レベルの哲学教育プログラムをプノンペンで開設したいという要望を受け、本研究を開始した。

2. 研究の目的

平和構築のための哲学実践のメソッド、教材とカリキュラムの開発、カンボジアの状況に応じた内容の文脈化を通して、現地の高等教育の発展と人材開発に貢献することが本研究の目的である。研究のアウトカムとして、具体的には、カンボジアの大学で実施するマスターコースレベルの哲学教育カリキュラムをデザインすること、現地のニーズに適合した批判的思考教育の教科書を編集すること、最終的に現地の大学にプログラムを開設することを目指した。そうしてカンボジアにおける平和構築に哲学教育を通じて貢献することが本研究の最終目的である。

哲学実践(philosophical practice)が欧米を中心に盛んに行われるようになって久しい。Gerd Achenbach(ドイツ)、Oscar Brenifier(フランス)、Lou Marinoff(アメリカ)らの方法論を学んだ実践家が、世界各地でソクラティックダイアログ、哲学カウンセリング、哲学カフェや子供のための哲学などの哲学実践を行っている。

ところで、カンボジアという後発途上国で批判的思考(クリティカルシンキング)の教育を実践しようとする場合、その地域の特殊性を考慮する必要がある。言語、歴史、国民性といった特殊的要素を考慮に入れずに実践しても高い効果は期待できない。たしかに現地にはインターナショナルプログラムを設置する私立大学も存在している。しかし、諸々の実践を現地化するためには地域の特殊性をどこまで考慮すべきか、実際の活動の中で調査を進める必要がある。

そこで、カリキュラムは世界で行われてい

る哲学実践に共通的な部分を残しつつも、現地のニーズ、すなわち腐敗への挑戦という課題に適合したものをデザインする。また、教科書は、後にアジアの他の発展途上国での平和教育のためにも用いられることを念頭に置いて編集する。

異なる哲学的・宗教的伝統と思想的・政治的背景の下、平和へのアプローチの仕方も多様である。また、ケーススタディを重視する。問題解決の手法は一通りではないということを示す。

3. 研究の方法

これまで共同研究を行ってきたタイの大学の哲学教員-研究者と協力し、また哲学実践の経験豊富な日本人及びオランダ人教員-研究者とも連携して、現地の教員を対象としたセミナーやトレーニングワークショップを開催、授業のコーチングを行うなど、実践的な研究を進めた。そして現地の教員-研究者との討議を通じてカリキュラムデザイン、教科書の編集を共同で行うこととした。

初年度:第2回国際フォーラム The 2nd International Forum on Perspective and Reflection on the Philosophical Practices in Asia, PUC, 24-25 & 30 November 2012 をパナサストラ大学プノンペン(PUC)で開催。加えて、シエムリアップでフィールドスタディ(哲学散歩)を実施。この段階でPUC人文社会学部大学院に哲学教育のためのマスターコース(英語コース)を設置することで現地スタッフと合意。カリキュラムデザインを開始。教科書編集委員会の立ち上げ。プノンペンで哲学カフェを定期的に開催。

第2年度:第13回アジア学術会議タイ会合国際シンポジウム、2013年6月、ポスターセッションで哲学実践マスターコースカリキュラムを発表。タイ、バンコクのチュラロンコン大学文学部で国際シンポジウム Roundtable on Critical Thinking and Philosophical Practice, 19-20 December 2013 を開催。カンボジア、シンガポール、韓国からゲストスピーカーを招く。会議中にカンボジアからの参加者とPUCに設置予定のマスターコースの実務について打合せ。

第3年度:研究代表者の職務上の異動(大阪大学ASEANセンター(バンコクオフィス)センター長に就任、2014年4月~現在に至る)とカンボジアの実務担当者の異動(PUCを退職、プノンペン王立大学RUPPへ異動)に伴い、研究計画を変更。現地にNPO法人 Prajanasastra Vihara, Centre for Philosophical Practice を開設。このセンターを中心に研究と実践を進めることとした。研究代表者がクメール大学(プノンペン)で平和構築のための哲学実践(授業、2014年10月)を行う。

第4年度:カンボジア人教員-研究者(RUPP人文社会学部哲学科)1名及びタイ人教員-研究者1名を大阪大学大学院文学研究科現

代思想文化学講義（集中講義「発展途上国における教育開発のための哲学実践」2015年12月）に非常勤講師及びゲストスピーカーとして招へい。カンボジア語で教科書を編集。

以上のように実践的な研究を重ねることを通じて、哲学実践に関する現地での理解を深め、活動を現地化していく、このような方法論を採用した。

4. 研究成果

哲学実践を中心としたマスターコースのカリキュラムデザインを完成した。またカンボジア語で書かれた批判的思考の教科書（英語名：Philosophy and Critical Thinking）を編集した（プリントして使用に供しているが、現時点では未公開）。現地（プノンペン）にNPO法人 Prajanasastra Vihara, Centre for Philosophical Practice を開設、フェースブックで活動内容を紹介している。

研究と実践を通して得られた知見：(1) タイの大学のインターナショナルプログラム（英語コース）の教室で批判的思考（クリティカルシンキング）の教育が有効であることはすでに確認されていたが、後発途上国であるカンボジアにおいては、同様な批判的思考教育が必ずしも有効ではない。参加者が自分自身の体験を深く反省し、それを語ることができる母語（カンボジア語）での実践が不可欠である。(2) プノンペンで哲学カフェを定期的に開催している。この活動は、現地スタッフが自律的に行っており、研究代表者の支援はもはや不要の段階に達している。カフェでは参加者はカンボジア語で話し合うが、まさに母語で話し合うことにより、この活動が現地に根付くことができたと言えよう。

結論として、カンボジアのような後発途上国における哲学実践は、英語よりも現地の言葉で行う方がより効果的である。また、現地の教員-研究者を育成し、適当な段階で自立させて、活動を現地化していくことが重要である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

1. 望月太郎 「3.11」あるいは「フクシマ」後の世界を生きる：悲観主義と楽観主義のあいだで アルケー（関西哲学会年報）21, 2013
2. 望月太郎 パターナリズムと市民社会 日本の科学者 48-4 (543), 2013
3. Taro MOCHIZUKI, *A Philosopher's Defeat in World War II: Tanabe Hajime's Conversion to Shin Buddhism in Philosophy as Metanoetics*, Prajana Vihara Journal of Philosophy and Religion, 14, 1-2, Assumption University, Bangkok, Thailand, 2014

〔学会発表〕（計3件）

1. 望月太郎 「3.11」あるいは「フクシマ」後の世界を生きる：悲観主義と楽観主義のあいだで 関西哲学会第65回大会課題研究発表 2012年10月、名古屋大学
2. Taro MOCHIZUKI, 'Paternalism and Civil Society', Joint Chulalongkorn University and American University of Sovereign Nations, Dialogue on Bioethics, 2014年1月、チュラロンコン大学文学部, バンコク, タイ
3. Taro MOCHIZUKI, 'How do we Redeem the Lost Future after Fukushima? Sense of Guilt, Memory and Redemption', Energy and Intergenerational Ethics, Perspectives in and for the ASEAN Region, Konrad-Adenauer Stiftung e.V., 2015年9月, The Grand Fourwings Convention, バンコク, タイ

〔図書〕（計2件）

1. 木戸衛一編『平和研究入門』大阪大学出版会 2014年4月（分担執筆：望月太郎 III-5「エラスムスの平和論」）
2. 細川孝編『「無償教育の漸進的導入」と大学界改革』晃洋書房 2014年4月（分担執筆：望月太郎 第3章「カンボジアにおける高等教育の量的拡大と授業料高騰の問題」）

〔その他〕

ホームページ等
Prajanasastra Vihara
<https://www.facebook.com/chimphorst>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

望月太郎 (MOCHIZUKI, Taro)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：50239571

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

河野哲也 (KONO, Tetsuya)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：60384715

(4) 研究協力者

チム・ポー (CHIM, Phorst)
Lecturer, Faculty of Humanities and Social Sciences, Royal University of Phnom Penh, Cambodia

カニット・シリチャン (SIRICHAN, Kanit)
Assistant Professor, Faculty of Arts, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand

カセム・ペンピナント (PHENPINANT, Kasem)
Assistant Professor, Faculty of Arts,
Chulalongkorn University, Bangkok,
Thailand

ピーター・ハーテロー (HARTELOH, Peter)
Director, Erasmus Institute for
Philosophical Practice, Rotterdam, The
Netherlands